

合同防災訓練報告

明石仁十病院 大野翼

順心病院 浜田貴嗣

令和5年兵庫丹波地域合同防災訓練に兵庫JRATの一員として参加しました。想定災害は水害で私たちのチームは発災初日の避難所開設と受付場面という設定でした。

訓練目的は避難所開設に慣れていない自治体の一般職員がHUG(HUG:避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるかというゲーム)のようなトレーニングを実際の避難所受付で行っているところを、セラピストを擁するJRATチームが評価しフィードバックをするというものでした。避難者の設定は同一で、受付スタッフをローテーションで回して実践していました。

受付にて体調管理チェックシートを聴取し、避難者の性質によって区域分けを行っているところを初動対応として問題点はないかリハ目線で確認し市職員の方と共有しました。

余った時間で避難所内の生活環境やバリアフリーを確認し福祉用具などの必要物品を検討することや、ライフラインが断絶した際に配慮すべき点をJRATスタッフで話し合いました。

避難所のキャパ、インフラ、避難者の性質によって環境を検討することが求められました。

個人的な感想としては、訓練当日は医療関係団体だけでも14機関が参加しており、“いつ”、“どの場面で”、“どのような役割”をするのか、各団体の立ち位置を明確にした上で業務分担と連携ができなければ、ひっ迫する災害現場では窮するということが容易に想像できました。

実際の災害現場でも、今現在、どのような団体・職種が参加しているのか、人的・物的リソースを把握したうえで適切な振り分けをすることが重要なのだと認識する機会となりました。また、災害時、現場に救援にくる組織の職種やその役割、JRATの役割等が大まかにではあるが把握できました。また、継続的に訓練する事が実際に起こった時の準備として非常に重要だと感じました。